

②5 飯高檀林と安久山の里山 下総台地東部の社叢林と里山の風景

【概要】日蓮宗最古、最大、最高の学問所であった飯高寺と境内の杉巨木林。周辺の里山には、県内最大のスダジイや谷津田の風景が広がる。

【森林の特徴と見所・歴史文化】

匝瑳市北部に位置する飯高寺は、天正8年(1580年)から明治7年(1874年)まで294年にわたって日蓮宗最古、最大、最高の学問所がおかれた寺である。天正19年(1591年)徳川家より日蓮宗の根本檀林として公認され、家康の側室「お万の方」の信仰が厚かったとされる。学生発布により廢檀となり立正大学へと受け継がれた。

「檀林」とは梅檀林の略語で、僧侶の集まりを梅檀の林に例え、寺院の尊称であるとともに仏教の学問所を意味する。最盛期には、600~800人の学僧が集まり多くの名僧を輩出した。廢檀当時のまま保存され、総門、鼓楼、鐘楼、講堂は国の重要文化財、境内全体が千葉県の史跡に指定。総門への道端にはオドリコソウ、キランソウ、カテンソウ、ネコノメソウなどの群落が見られる。講堂の屋根は栩葺(とちぶき)と言いサワラの板で葺いてある。土台は版築という工法で作られコンクリートのように固い。平成の修理時、約300年で約5cmしか沈んでなかったそうだ。境内には、杉の巨木が林立し歴史の重みを感じさせてくれる。

「黄門桜」は水戸光圀が佐原から飯高檀林まで植えさせた「並木」のうち的一本であり、現存する最後のヤマザクラと考えられている。樹高9m、幹回り5.2m、枝張南北15.8m・東西13.5m。社殿のある天神の森はスダジイを主体とする自然林で覆われ、老巨木には発達した板根が見られる。総門への道を分けて左折すると、飯高神社への道はモミ、アカガシ、スダジイなどの生い茂る森の中の道で、ヤブニンジン、コ克蘭などの群落が見られる。

飯高神社は、明治の神仏分離で妙福寺より分けられた神社で、以前は妙見宮と言われていた。敷地649坪の境内には三間社流造の本殿、拝殿が立ち並び周囲には玉垣を巡らしている。玉垣には、「二十四孝」の彫刻が施されている。

妙福寺には水戸光圀お手植えの梅があったが、

現在は水戸市から送られた偕楽園の梅が植えられている。又、大きな藤棚があり、毎年5月には花の見ごろを迎える。

安久山のスダジイは平山家の庭にあり、樹高25m、幹回り10m。樹齢は1000年以上と言われ千葉県最大、全国でも5番目とされ、市の天然記念物に指定されている。平山さん宅にはユキモチソウ、ムサシアブミ、クマガイソウ、ハッカクレンなどの珍しい植物も植栽されている。平山邸の裏の坂を下ると、電柱の一本も見えない谷津田が広がり、日本の原風景を垣間見る思いがする。

【コース紹介】

飯高檀林南P①よりミニギャラリー「よりみち」の前を進み「飯高寺方面」へと左折。道なりに登ると総門前②。門をくぐり鬱蒼とした杉巨木林の中を行くと、正面に講堂③のある広場へ出る。飯高寺裏手のボタン園を見ながら、北P方面へ。右「天神の森」の標識を右折。左の林の未舗装の道を進むと畑の横を通り舗装路へ合流。しばらく進むと黄門桜④だ。

来た道を戻り飯高寺からの道を右に見てしばらく行くと、天神の森の階段下に着く。階段がいやなら少し手前から右に入る道を登れば少し楽だ。登りきると天神社のある天神の森⑤でスダジイの大木が林立している。天神社を正面に見て左へ行き、法福寺へと続く階段を利用する。城下の集落の中を飯高寺方面へ向かう。坂道を上って頂上手前に左手「飯高神社」方面の標識があり、道なりに歩くと飯高神社⑥の裏手に達する。

神社正面の階段を下り右手に進むと妙福寺。ウメ、藤棚⑦を見て寺の正門への道を進むと南Pへと戻る。南Pを出て右へと道を取る。飯高の信号を過ぎ2つ目を左折し、400mほどで右手にMKハイツというアパートがある。その隣の平山さん宅の「安久山の大スダジイ」⑧と裏手の里山を見学させていただく。行程約8km(含む移動距離)、約3時間の歩程

① 飯高檀林南 P



② 総門



③ 講堂



④ 黄門桜



⑤ 天神の森



⑥ 飯高神社



⑦ 妙福寺



⑧ 安久山の大スダジイ

